



まちの話題

いつまでもお元気で

前田 アヤ子さん 100歳のお誕生日

^{まえだ}前田アヤ子さん（御厨・木場）が3月25日、100歳の誕生日を迎えました。

4人姉妹の二女として生まれた前田さんは、結婚後、子どもが生まれてからすぐに夫を亡くし、女手一つで4人の子どもを育てあげました。80代まで畑仕事をしながら同居の孫の世話等をしてこられ、現在はデイサービスを週に一度利用しながら、家族とともに穏やかに過ごされています。

この日、自宅で家族らに囲まれてお祝いの花束や言葉を受け取りました。



美しい花を楽しめるように

松浦ロータリークラブ

松浦ロータリークラブ（^{なかやま よしのり}中山吉則会長）が3月22日、不老山総合運動公園の除草作業を行いました。

同クラブは、社会奉仕活動の一環として、長年にわたり除草・清掃活動などのまちをきれいにする取り組みを市内各地で実施しています。

今回は、第1駐車場手前の植栽された区画の除草・伐採作業を行い、会員15人が汗を流しました。

同公園はツツジの名所で、不老山花と光のフェスタも開催されるほか、花を楽しみに多くの人を訪れます。

生い茂っていた草が刈られてすっきりとし、訪れた人たちが気持ちよく過ごせるようになりました。



いつまでもお元気で

金子 ヤエ子さん 100歳のお誕生日

^{かねこ}金子ヤエ子さん（志佐・横辺田）が3月22日、100歳の誕生日を迎えました。

5人兄妹の二女として生まれた金子さんは、19歳で結婚し、夫婦で農業をしながら2人の子どもを育てあげました。若い頃から和裁が得意で、最近まで縫い物や編み物を楽しんでいたそうです。5年程前から、グループホーム元気の家で過ごされており、いつも職員や周囲の人を労り、優しく声をかけられています。

この日、家族や職員に囲まれながら温かな祝福を受け、笑顔を見せていました。



たくさんおもちゃが届きました

西プラ労組がおもちゃを寄贈

西日本プラント工業労働組合長崎支部（^{すみた ちひろ}住田知弘執行委員長）から市の子育て支援施設に本やおもちゃが寄贈され、その贈呈式が3月16日、「志佐こどものいえ」で行われました。

贈られたおもちゃなどは、同支部が組合員などに呼び掛け、各家庭で使わなくなったものを集めたもので、軽トラック3台分が届けられました。

式には、住田執行委員長および組合員、学童保育で施設を利用する子どもたち、関係者などが出席。子どもたちは、さっそく気に入ったおもちゃを見つけ、みんなで楽しく遊んでいました。



災害時の協力支援体制を強化

災害時等の歯科医療救護活動に関する協定調印式

北松歯科医師会（西田耕也会長）との災害時等の歯科医療救護活動に関する協定調印式が3月20日、市役所で行われました。

歯科医師会との協定締結は県内で12例目。この協定により、大規模災害が発生した際、市が北松歯科医師会と連携し、避難所・救護所等において、歯科診療や口腔ケアなどの処置を行うことが可能となり、歯科医療体制のより一層の充実・強化が図られます。

西田会長は、「災害時には迅速かつ円滑に行動し、市民皆さまの健康増進に協力していきたい」と話されました。



称頌碑の前で冥福を祈る

調川駅長（故）丸山七郎氏慰霊祭

旧国鉄松浦線当時の調川駅長である故丸山七郎氏の慰霊祭が4月5日、称頌碑前で執り行われました。

丸山氏は昭和18年4月5日、貨物列車の脱線事故復旧を図る際に空襲警報と灯火管制で作業が進まなかったため、やむなく明かりを灯して復旧作業を完遂。翌朝、事故と命令違反の責任を取って、自ら機関車に飛び込み亡くなったとされ、碑はその功績をたたえ、昭和20年5月に建立されました。

昨年、没後75年の節目に、今福神社の早田伸次宮司と松浦鉄道協会前会長の吉本務さんらが慰霊祭を開催され、慰霊の心をつなげたいと今年も実施されました。



高まる子育て支援

上志佐保育所

社会福祉法人上志佐めだかの会（三木和枝理事長）が運営する上志佐保育所では4月から、就労等により、日曜・祝日に家庭で保育ができない未就学児を預かる「休日保育事業」、昼間に保護者が家庭にいない小学生を預かる「放課後児童健全育成事業」を新たに実施しています。

市では、安心して産み育てられる子育て環境づくりを推進しており、上志佐保育所でも3月の改築移転により、拡張された園庭や木の温もりによる新たな環境が整った園舎で当該事業を実施しています。

休日保育事業は、今後市内の保育園で輪番制により実施予定。両事業を利用する場合には、子育て・子ども課で事前に申込手続きが必須です。



戦没者の霊を慰める

春の戦没者慰霊祭

市内各地で、春の戦没者慰霊祭が執り行われました。志佐地区では戦没者慰霊祭が4月4日、慰霊碑の前で行われ、戦没者の遺族や市民などが参列し、黙とうを捧げ、戦没者160人のご冥福をお祈りしました。

志佐地区戦没者慰霊奉賛会の向井勝正会長は、「現在の平和と安寧の時代が、尊い命を捧げ、礎となった英霊の皆さまの賜物であることを決して忘れません。あらためて戦争の悲惨さを深く受け止め、二度と繰り返さず、恒久平和な社会を築くことを誓います」と祭辞を述べました。

